

(主な内容)

○令和元年度「国語に関する世論調査」
結果の概要 1

○告知板..... 6

中央調査報

令和元年度「国語に関する世論調査」結果の概要

文化庁 国語課 町田 互

文化庁では、令和元年度「国語に関する世論調査」の調査報告書を令和2年9月に発行した。この調査は、国語施策の参考とするとともに、国民の国語への関心を喚起するため、平成7年度から毎年実施している。調査結果は、文化審議会国語分科会の審議資料とされる等、国語施策の参考とされる。以下では、本調査の概要について、令和2年9月に調査報告書を取りまとめた際に発表した概要版にしたがって紹介する。

○調査の概要

今回の調査は、従来と同様に以下のとおり実施した。

調査対象：全国(210地点)の16歳以上の男女個人

対象数：正規対象3,000、予備対象557

実査時期：令和2年2月27日～3月15日

抽出方法：層化2層無作為抽出

調査方法：面接聴取法

回収サンプル数(回収率)：1,994(56.1%)

○調査項目

主な調査項目は、以下のとおりである。

(1)国語の乱れ

- ①国語が乱れていると思うか
- ②国語がどのような点で乱れていると思うか
- ③国語が乱れていないと思う理由

(2)外国人と日本語に関する意識

- ①外国人と接する機会があるか
- ②外国人とどのように意思の疎通を図っているか
- ③やさしい日本語で外国人に対して伝える取組の存在を知っているか

- ④日本在住の外国人に対して災害や行政の情報などを伝えるために必要な取組
- ⑤日本在住の外国人は、どの程度日本語の会話ができるかと思うか
- ⑥日本在住の外国人は、どの程度日本語の読み書きができるかと思うか
- ⑦日本在住の外国人が日本語能力を身に付けるために必要な取組
- ⑧外国人に対する日本語学習の手助けについてどう思うか

(3)敬語に関する言葉遣いに対する印象

(4)平成22年の常用漢字表改定で追加された漢字の印象

(5)新しい表現に対する印象

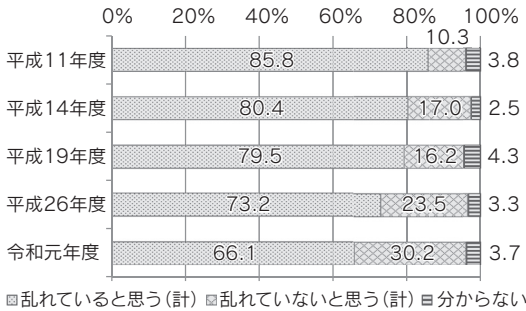
(6)慣用句等の認識と使用

○調査結果の概要

1.国語の乱れ

ふだんの生活の中で接している言葉から考えて、今の国語は乱れていると思うかを尋ねた結果が図表1である。

図表1 国語が乱れていると思うか



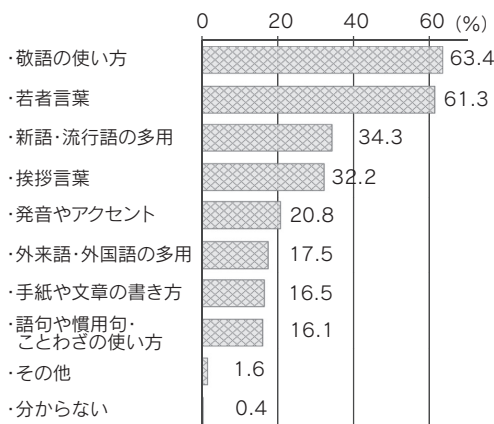
「非常に乱れていると思う」を選択した人の割合が10.5%、「ある程度乱れていると思う」が55.6%で、この二つを合わせた「乱れていると思う(計)」は66.1%となっている。一方、「全く乱れていないと思う」は2.4%、「余り乱れていないと思う」は27.8%で、この二つを合わせた「乱れていないと思う(計)」は30.2%となっている。過去の調査結果(平成11、14、19、26年度)と比較すると、「乱れていると思う(計)」は、平成11年度調査(85.8%)から今回調査(66.1%)に掛けて減少傾向にあり、前回の平成26年度調査(73.2%)から7ポイント減少している。

2. 国語が乱れていると思う点

国語が「非常に乱れていると思う」と「ある程度乱れていると思う」と回答した人(全体の66.1%)に、どのような点で乱れていると思うかを尋ねた(選択肢の中から三つまで回答)結果が図表2である。

「敬語の使い方」(63.4%)、「若者言葉」

図表2 国語が乱れていると思う点

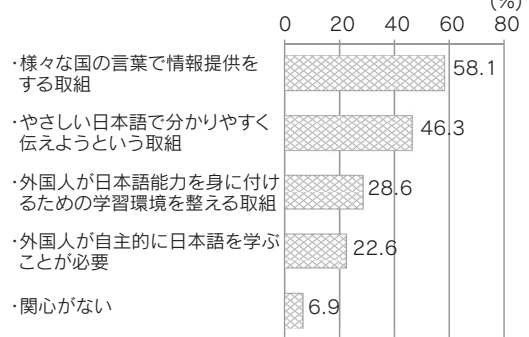


(61.3%)の割合が他に比べて高く、それぞれ6割を超えている。次いで「新語・流行語の多用」(34.3%)、「挨拶言葉」(32.2%)が3割を超えている。

3. 在留外国人への情報伝達に必要な取組

災害や行政に関する情報などを日本に住んでいる外国人に対して伝えるために、どのような取組が必要だと思うかを尋ねた(選択肢の中から幾つでも回答)結果が図表3である。

図表3 在留外国人への情報伝達に必要な取組



「様々な国の言葉で情報提供をする取組」が58.1%で最も高く、次いで「やさしい日本語で分かりやすく伝えようという取組」が46.3%となっている。

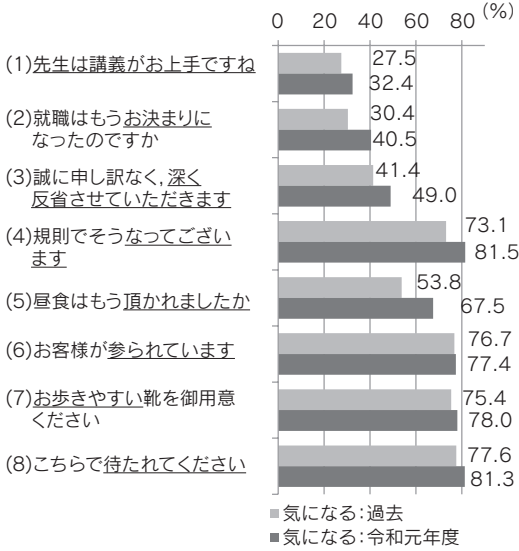
なお、日本に住んでいる外国人に対するやさしい日本語の取組を知っているかを尋ねる問いでは、「知っている」が29.6%、「知らない」が68.1%となっている。

4. 敬語に関する言葉遣いに対する印象

「誠に申し訳なく、深く反省させていただきます」「こちらで待たれてください」など、下線部の八つの言い方を挙げて、気になるかどうかを尋ねた結果が図表4である。

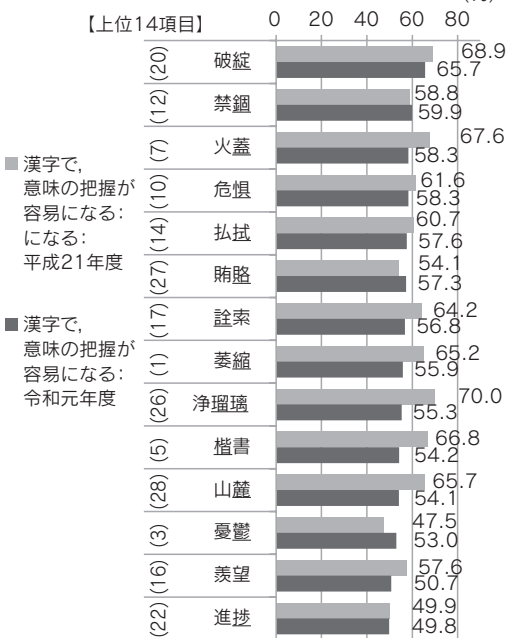
「気になる」という回答の割合は、「(4)規則でそうなってございます」が最も高く81.5%、次いで「(8)こちらで待たれてください」が81.3%、「(7)お歩きやすい靴を御用意ください」が78.0%、「(6)お客様が参られています」が77.4%となっている。一方、「(1)先生は講義がお上手ですね」は32.4%、「(2)就職はもうお決まりになったのですか」は40.5%となっている。

図表4 敬語に関する言葉遣い



過去の調査結果((1)(3)(7)は平成10年度、(2)(4)(5)(8)は11年度、(6)は12年度)と比較すると(図4)、「気になる」は、(1)～(8)の全てで増加傾向にある。中でも、「(5)昼食はもう頂かれましたか」は14ポイント、「(2)就職はもうお決まりになったのですか」は10ポイント、「(4)規則でそうなっております」は8ポイント、それぞれ「気になる」が増加している。

図表5 常用漢字表の漢字の印象



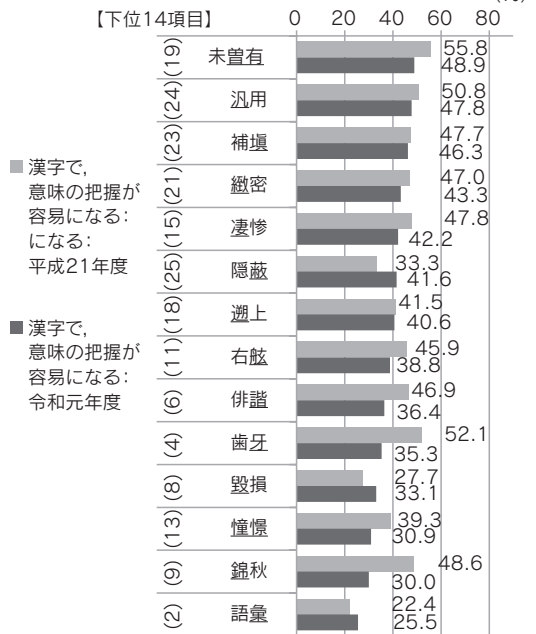
5.平成22年の常用漢字表改定で追加された漢字の印象

下線部の漢字表記を見て、どう思うか尋ねた。その結果が図表5、6である(今回調査で「漢字を使うことで、意味の把握が容易になる」の割合が高い順に、図表5が上位14項目、図表6が下位14項目)。選択肢は、「漢字を使うことで、意味の把握が容易になる」、「読みにくいので、振り仮名を付けるのが望ましい」、「読みにくいので、仮名書きが望ましい」、「分からない」である。この設問で取り上げた28の漢字による表記は、平成21年度に行った同様の調査の結果に基づいて選定したものである。

平成21年度調査では、平成22年に「常用漢字表」が改定されるのに先立ち、「常用漢字表」への追加候補漢字に対する国民の意識を調査するため、174の漢字による表記について、どのように感じるかを今年度調査と同じ選択肢を示して尋ねた。この174の表記は、平成22年内閣告示「常用漢字表」に追加された196字(当時は追加候補漢字)のうち、都道府県名に使われる11字を除いた185字を174の語として示したものである。

今回の調査は、平成21年度調査で「漢字を使うことで、意味の把握が容易になる」と回答した

図表6 常用漢字表の漢字の印象



人の割合が70.0%以下であった55の漢字による表記を対象に、国民の意識の推移を調査しようとするものである。令和元年度と令和2年度の2回に分けて調査を行うこととし、1回目となる今回は、その約半数に当たる28の表記について調査を行った。

28の漢字による表記について、「漢字を使うことで、意味の把握が容易になる」は、割合が高い順に、「(20)経営が破綻する」(65.7%)、「(12)禁錮5年の判決」(59.9%)、「(7)決戦の火蓋を切る」と「(10)彼の将来を危惧する」(それぞれ58.3%)となっている。(1)から(28)の数字は問題番号。以下同様。)

一方、「漢字を使うことで、意味の把握が容易になる」と回答した人の割合が低いものは、順に、「(2)彼は驚くほど語彙が豊富だ」(25.5%)、「(9)錦秋の京都を訪ねる」(30.0%)、「(13)西欧文明への憧憬」(30.9%)、「(8)名誉を毀損する」(33.1%)となっている。

過去の調査結果(平成21年度)と比較すると、「漢字を使うことで、意味の把握が容易になる」が5ポイント(以下「P」)以上増加しているのは、「(25)隠蔽」(8P増)、「(3)憂鬱」(6P増)、「(8)毀損」(5P増)である。

一方、「漢字を使うことで、意味の把握が容易になる」が10ポイント以上減少しているのは、「(9)錦秋」(19P減)、「(4)歯牙」(17P減)、「(26)浄瑠璃」(15P減)、「(5)楷書」(13P減)、「(28)山麓」(12P減)、「(6)俳諧」(11P減)である。

6. 新しい表現に対する印象

「～活」(「婚活」や「終活」など)、「～ハラ」(「パワハラ」や「モラハラ」など)などの、いろいろな語に付く表現を五つ挙げて、自分が使う(ことが

あると思う)か、また、他人が言うのが気になるかをそれぞれ尋ねた結果が図表7である。

選択肢は「(ア)自分も使う(又は使うことがあると思う)し、他人が言うのも気にならない」、「(イ)自分は使わないが、他人が言うのは気にならない」、「(ウ)自分は使う(又は、使うことがあると思う)が、他人が言うのは気になる」、「(エ)自分は使わないし、他人が言うのも気になる」、「どれに近いとも言えない」、「分からない」である。図表7では、(ア)と(ウ)の合計を「自分は使う(計)」、(ア)と(イ)の合計を「他人が言うのは気にならない(計)」のようにして、各小計を示した。

「自分は使う(計)」と回答した割合は、(3)「～ハラ」(「パワハラ」や「モラハラ」など)が最も高く58.1%、次いで(1)「～活」(「婚活」や「終活」など)が54.4%となっている。一方、「自分は使わない(計)」は、(4)「ガン～」(「ガン見」や「ガン寝」など)が最も高く67.6%となっている。

(1)～(5)の全てで、「他人が言うのは気にならない(計)」は、「他人が言うのが気になる(計)」より高く、(4)「ガン～」(「ガン見」や「ガン寝」など)を除いて75%以上となっている。

7. 慣用句等の認識と使用

例年尋ねている、慣用句などの言葉の意味・言い方について問いの結果は図表8、9である。表中の太字は、辞書等で主に本来の意味・言い方とされてきた選択肢である。また、白抜きの数字は、辞書等で本来の意味・言い方とされてきた方を選択した割合より、そうでない方を選択した割合が5ポイント以上高いものである。

慣用句等の意味(図表8)では、「(1)手をこまねく」「(2)敷居が高い」「(3)浮足立つ」のい

図表7 (各小計, 数字は%)

	自分は使う (計)	自分は使わない (計)	他人が言うのが 気になる(計)	他人が言うのは 気にならない (計)
(1)「～活」(「婚活」や「終活」など)	54.4	43.3	7.1	90.6
(2)「～ビス」(「クールビス」や「ウォームビス」など)	41.7	54.7	8.8	87.6
(3)「～ハラ」(「パワハラ」や「モラハラ」など)	58.1	39.3	14.8	82.5
(4)「ガン～」(「ガン見」や「ガン寝」など)	26.6	67.6	36.6	57.6
(5)「アラ～」(「アラサー」や「アラフィフ」など)	35.9	58.7	18.7	75.9

図表8 (数字は%)

(1)「手をこまねく	令和元年度	平成20年度
(ア)：何もせずに傍観している	37.2	40.1
(イ)：準備して待ち構える	47.4	45.6
(2)「敷居が高い」(例文：あそこは敷居が高い)	令和元年度	平成20年度
(ア)：相手に不義理などをしてしまい、行きにくい	29.0	42.1
(イ)：高級すぎたり、上品過ぎたりして、入りにくい	56.4	45.6
(3)「浮足立つ」	令和元年度	
(ア)：喜びや期待を感じ、落ち着かずそわそわしている	60.1	
(イ)：恐れや不安を感じ、落ち着かずそわそわしている	26.1	

図表9 (数字は%)

(1)「今までのことを改め、最初から始めること」を	令和元年度	
(a)：新規まき直し	42.7	
(b)：新規まき返し	44.4	
(2)「前に負けた相手に勝つこと」を	令和元年度	平成22年度
(a)：雪辱を果たす	38.3	43.3
(b)：雪辱を晴らす	50.5	43.9
(3)「よく分かるように丁寧に説明すること」を	令和元年度	平成20年度
(a)：噛んで含むように	31.9	39.7
(b)：噛んで含めるように	50.5	43.9

れも、辞書等で本来の意味とされてきたものとは異なる方が多く選択されるという結果となっている。

選択肢は、(ア)と(イ)の意味のほか、「アとイの両方」、「ア、イとは、全く別の意味」、「分からない」である。

過去の調査結果((1)、(2)は平成20年度、(3)は新規の問い)と比較すると、辞書等で本来の意味とされてきた方を選択した割合が、(1)、(2)ともに減少傾向にあり、「(2)敷居が高い」は13ポイント減少している。

慣用語の言い方(図表9)では、辞書等で本来の言い方とされてきた(2)「(a)雪辱を果たす」を使う割合は、辞書等で本来の言い方とされてきた方とは異なる「(b)雪辱を晴らす」を下回っている。

選択肢は、「(a)の方を使う」、「(b)の方を使う」、「(a)と(b)の両方とも使う」、「(a)と(b)のどちらも使わない」、「分からない」である。

過去の調査結果((2)は平成22年度、(3)は20年度、(1)は新規の問い)と比較すると、辞書等で本来の言い方とされてきた方を選択した割

合が、(2)「(a)雪辱を果たす」では5ポイント減少し、一方、(3)「(a)噛(か)んで含めるように」では7ポイント増加している。

おわりに

以上、「令和元年度 国語に関する世論調査」について調査結果の概要を紹介した。

なお、全問の結果については文化庁ウェブサイト概要版のPDFファイルを公開している。QRコードから御参照いただきたい。



備考： 百分比は各問いの回答者数を100%として算出し、小数点第2位を四捨五入して示しているため、百分比の合計が100%にならない場合がある。また、百分比の差を示す「ポイント」については、小数点第1位を四捨五入して示した。

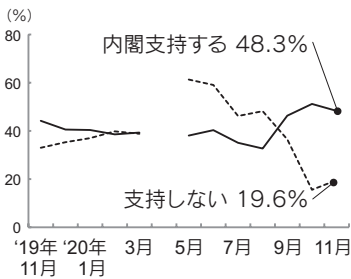
◇ 告知 板

11月の時事世論調査

11月の時事世論調査によると、菅内閣の支持率は前月から2.9ポイント減少して48.3%となった。不支持率は19.6%で4.0ポイント増加した。学会会議問題への説明姿勢が支持率低下に影響したとみられる。

調査は全国18歳以上の男女2,000人を対象として11月6日から9日に実施、有効回収(率)は1,268(63.4%)だった。

【注：4月は調査中止、5月と6月は郵送法で実施】



この時期の国内の動きは、

菅首相、ベトナム首相と会談：菅首相は19日午前、ベトナムのフック首相と会談した。菅首相が外国の首脳と対面で会談するのは就任後初めて。滞っていたビジネス目的の短期出張者の往来再開などで合意した(10月19日)。

アニメ映画「鬼滅の刃」記録的封切り：10月16日に公開されたアニメ映画「劇場版「鬼滅の刃(やいば)無限列車編」(外崎春雄監督)が、初日から3日間で約342万人の観客を集めた。3日間の興行収入は約46億円と記録的な封切りとなった(10月19日)。

東京オリンピック、観客数の削減を検討：国際オリンピック委員会(IOC)のバッハ会長は、韓国SBSテレビが放送したインタビューで、「満員の観衆が理想的だが、現実的に可能とは思わない」と述べた(10月29日)。

大阪都構想、反対多数：大阪市を廃止して特別区に再編する「大阪都構想」の是非を問う住民投票が1日行われ、僅差で反対が賛成を上回った。前回2015年に続く否決となり、大阪維新の会代表の松井一郎市長は23年4月の任期満了で政界を引退すると表明した(11月1日)。

香川で鳥インフルエンザ発生：香川県三豊市の養鶏場で、高病原性鳥インフルエンザが発生したと農林水産省が発表した。国内の養鶏場では2018年1月の香川県さぬき市での発生以来、2年10カ月ぶり。政府は県の要請に基づき自衛隊を派遣した(11月5日)。

秋篠宮さま、立皇嗣の礼：秋篠宮さまが皇位継承順位第1位の「皇嗣」となったことを内外に示す儀式、「立皇嗣の礼」が皇居で行われた。立皇嗣の礼は過去に例がなく、天皇陛下が皇太子になられた際の儀式「立太子の礼」を踏襲した(11月8日)。

国外では、世界一貧しい大統領、政界引退へ：「世界で最も貧しい大統領」として知られた、南米ウルグアイのホセ・ムヒカ元大統領(85)が「私はパンデミックに放り出された」として、新型コロナウイルスを理由に議員辞職を発表した。政治活動は継続と伝えられている(10月21日)。

サムソンの李健熙会長が死去：韓国サムスン電子は25日、李健熙(イ・ゴンヒ)会長が死去したと発表した。78歳だった。韓国最大の財閥サムングループ会長で、半導体や携帯電話などで世界大手の企業グループに育てた(10月25日)。

中国共産党、5中全会開幕：中国共産党の第19期中央委員会第5回全体会議(5中全会)が26日開幕した。長期化した米国との対立を踏まえ、国内経済の底上げや、習氏が長期政権に向け足場を固めるかが大きな焦点となる(10月26日)。

トルコ沖で強い地震：トルコ西部イズミル沖のエゲゲ海で30日午後2時50分ごろ、強い地震があった。米地質調査所(USGS)によると地震の強さを示すマグニチュード(M)は7.0。トルコ当局は、多数の建物が倒壊し、数十名以上が死亡したと発表した(10月30日)。

ショーン・コネリーさん死去：人気スパイ映画「007」シリーズの初代ジェームズ・ボンド役を演じた英俳優ショーン・コネリーさんが、バハマの自宅で死去した。90歳だった。007シリーズ第1作「ドクター・ノオ」(62年)

を皮切りに初代ボンド役で世界的な人気を博した(10月31日)。

米大統領選、投票始まる：ドナルド・トランプ大統領(74)と、4年ぶりの政権奪還を狙う民主党候補のジョー・バイデン前副大統領(77)が争う米大統領選の投票が3日、始まった。同日中に投票を終えるが、新型コロナで急増している郵便投票の集計に時間がかかるため大勢判明は遅れ込む見込み(11月3日)。

政党支持率 自民党の支持率は前月比0.7ポイント減の25.7%。以下、立憲民主党は0.3ポイント増の4.1%、国民民主党は0.3ポイント減の0.2%、公明党は0.4ポイント減の2.6%、共産党は0.4ポイント減の1.5%、日本維新の会は0.7ポイント増の1.7%だった。支持政党なしは1.8ポイント増の61.0%。

政党支持率 (上段：11月、下段：10月)

政党	11月 (%)	10月 (%)
自民党	25.7	26.4
公明党	2.6	3.0
立憲民主党	4.1	3.8
国民民主党	0.2	0.5
共産党	1.5	1.9
日本維新の会	1.7	1.0
支持政党なし	61.0	59.2

国民の景気感 「良くなった」は前月より0.8ポイント減の7.4%、「悪くなった」は6.2ポイント減の43.2%となった。時事世論景気指数は前月から14ポイント増加して59となった。8月以降4カ月連続の増加で回復基調を示している。

【注：郵送法で実施した5月と6月は回答傾向が大きく異なったため、景気指数は算出していない】

時事世論景気指数

年	8月	9月	10月	11月	12月	1月
2012年	97.2	143.8	129.1	126.0	120.0	131.9
2013年	130.0	109.9	106	106	96	105
2014年	104	84	75	17	-14	-25
2015年	21	45	59			

暮らし向き 昨年の今頃と比べて「楽になった」は前月から1.3ポイント増の4.3%、「苦しくなった」は4.6ポイント減の22.3%となった。